

中国語話者から見た日本語の自他動詞のむずかしさ

——構文面からの対照

北村よう

0. はじめに

日本語学習者にとって、日本語の自動詞他動詞の区別は難しいと言われる。自動詞他動詞の区別に関しては、日本語における形態の複雑さに焦点が当てられることが多いが、本稿では、特に構文面に焦点を当てて、中国語母語話者が日本語の自他動詞の区別を難しいと感じる原因をさぐる。

中国語には自動詞他動詞の区別がないと言われるが、実例に当たってみると、中国語の対応のし方は複雑で、日本語における自他の区別を教えるだけでは中国語母語話者にとっての難しさは解決しないことが予想される。

本稿では、日本語の小説とその中国語訳を用いて、中国語母語話者が日本語の自他動詞の区別をむずかしく感じる原因をさぐる。ただし、実際に中国語母語話者が本稿で述べる原因で難しさを感じているかの検証は行わない。検証を行う前の予備的検討という位置づけである。

1. 中国語における自他の区別—形態面

構文面での対応を見る前に、形態面での対応について概要を見てみる。

日本語教育の現場において、中国語母語話者にとって日本語の自他動詞の区別がむずかしいことはよく知られていると言っていいだろう。その原因は、一般に中国語には自動詞他動詞の区別がないからだとされる¹⁾。

そのイメージは、日本語で自動詞アクが使われる範囲と他動詞アケルが使われる範囲、この両方を中国語の動詞「开（開）」が覆っているというものではないだろうか。そして、日本語で自他対応を持つ動詞のほとんどで同じような状況になっているだろうということは、言わば日本語教育の現場での常識となっているように思われる。

しかし、中国語の中にも「及物動詞」（他動詞に当たる）と「不及物動詞」（自動詞に当たる）の区別があり、自動詞に動作を表す動詞をつけて他動詞にし、他動詞に結果を表す要素を付け加えることによって自動詞としても使えるようにすることがある。

北村よう

自他両用と言われる‘开’の例で言えば、前に動作を表す‘打’をつけて‘打开’という動詞が作られ、他動詞としてはこちらが多く使われる²⁾。

つまり、‘开’と‘打开’が自他のペアのように働く。ただし、‘开’は他動詞として使われることもあり、自動詞‘开’に対して、他動詞‘开’、‘打开’という対応になる。さらに、開け方によって‘推开’（押して開ける）‘拉开’（引っ張って開ける）など、ほかの表現もある。日本語の多くの自他のペアと比べると、1対1対応ではない点で異なっている。

また、「壊れている」という意味の動詞³⁾‘坏’は自動詞であるが、前に動作を表す‘弄’をつけることによって他動詞を作ることができる。‘弄’はあまり具体的な意味を持たない動詞であるが、小学館『中日日中辞典』の「こわす」の項には、「『…して壊す』は、多くの場合動詞の後ろに“坏”をつけて、“打坏；用坏；喊坏；抽坏；拆坏”などとする」とある。つまり、ここでも1対多対応となる。

以上、形態的な面から自他動詞を概観した。以下では、構文的な面から考察を行う。

2. 一般的な語順

始めに、一般的な語順について見てみる。自動詞から見よう。

1) 「月が出てますね」

“月亮 出来了 嘛。”

月 出た ね

<センセイ>

2) 夏樹が暴れ出しそうになったとたん、チンと音がしてエレベーターが開いた。

夏树正待发飙的一瞬间，只听“叮”一声响，电梯 门 开了。

エレベーター ドア 開いた

<オーバー>

日中ともにSVの語順になっている。日本語では格関係を表すのに格助詞を用いるが、中国語では主に語順が格関係を表す手段となる。中国語では他動詞の場合SVOの語順が基本となる。

3) ため息をつき、わたしはグラスを置いた。

叹了口气，我 放下了 手中 的 杯子。

私 置いた 手の中 の グラス

<先生>

「置いた」という動作を表しているため、‘放’に方向を表す‘下’がついている。3)の

‘手中的杯子’は動作の対象で、日本語のヲ格で表されているものであり、SVO言語である中国語では動詞の後に配置される。また、中国語の他動詞文では、‘把’や‘将’を使って目的語を動詞の前に置き、場所を動詞の後に置くこともできる。

- 4) 「これ、これですよ」センセイは目を細め、そっと畳に陶器を並べた。

“你瞧，就是这个。”

老师 眯起 眼睛，轻轻地 把 陶器 放在了 榻榻米上。

軽く を 陶器 置いた 畳の上

<センセイ>

- 5) 草薙はコップを二つ取り、一つを湯川の前に置いた。

草薙拿了两个咖啡，将 其中 一杯 放到 汤川 面前。

を その中 一杯 置いた 湯川 前

<予知夢>

3) の場合は語順によって、また、4) 5) の場合は‘把’‘将’によって他動詞文であることがわかる。しかし、常にこのような対応があるわけではない。以下で対応しない例を見ていく。

3. 存在文の場合

次の例は、3)～5)と同じ動詞‘放’が存在文として使われたものである。

- 6) 押入には、やや古びた布団が入っていた。

壁橱 里 放着 有些 发旧 的 被子。

押し入れ 中 置く ASP いくつか 古くなる <連体修飾> 布団

<予知夢>

- 7) 部屋の隅にはセンセイの鞆が置いてある。

房间 的 角落里 放着 老师 的 提包。

部屋 の 墨に 置く ASP 先生 の 鞆

<センセイ>

6) 7) とともに中国語訳では‘放’という他動詞が使われている。対応する日本語の動詞は6) では「入る」という自動詞である。7) では「置く」という他動詞であるが、「置いてある」で自動詞的表現となっている。

存在文では、

北村よう

<場所> V着/了⁴⁾ <存在主体>

という語順になる。日本語でも存在を表す場合は、

<場所>ニ <存在主体>ガ V

と、存在主体より場所が前に来ることが多い。しかし、存在主体がガ格で表されていることから、語順がどうであれ、その動詞が自動詞（または、～テアルのような自動詞的表現）であることは明らかである。しかし、中国語では、一般的な他動詞文でも存在文でも、他動詞文の対象／存在主体は動詞の後に置かれる。同じ他動詞を使い、動詞の後ろという同じ位置にありながら他動詞文では日本語のヲ格、存在文ではガ格に対応することになる。

さらに、存在文では次の例の‘躺’（横たわる）や‘站’（立つ）のように、人間の姿勢を表す自動詞⁵⁾も使われる。

7) 彼女の足下には、大きなむく犬が寝そべっている。

妇人 脚 边 躺 着 一条 大型 的 长毛狮子狗。

婦人 足 ところ 寝る ASP 一匹 大型 の むく犬

<オーバー>

8) ドアが開き、誰かが立っていた。

门 开了, 门口 站 着 一个 人。

ドア 開いた ドアのところ 立つ ASP 一人 人

<予知夢>

自動詞の場合も、

<場所> V着/了 <存在主体>

という構造は変わらない。日本語では自動詞+テイル、他動詞+テアルという区別があるため、全体が自動詞的表現であっても、中の動詞の自他を判別することが可能だが、中国語の存在文では自動詞でも他動詞でも‘着’または‘了’がつき、語順や助辞から動詞の自他を判別することはできない。

さて、上で他動詞文における対象と存在文における存在主体、どちらも動詞の後ろに置かれることを確認した。動詞の後ろが同じであるから、違いは動詞の前の成分にある、ということになる。

‘放’のような設置動詞については、存在文での使用を根拠に自他両用動詞とする考えもある⁶⁾が、‘写’（書く）のような作成動詞は他動詞と見て問題ないであろう。存在文と他動詞

文を比較してみよう。

- 9) 黑板に今日の献立がチョークで書かれている。

黑板 上 用 粉笔 写着 今日的 菜单：

黑板 上 使って チョーク 書く ASP 今日 の メニュー

<センセイ>

- 10) 彼女宛てに何通も手紙が来ており，そこに住所が明記されていたからである。

他曾经给礼美写过很多封信，上面 清楚地 写着 地址。

上 はっきり 書く ASP 住所

<予知夢>

- 11) 夏樹は電話番号をそこに書き込んだ。

夏树 在 本子上 写下 电话号码。

夏樹 に ノート 上 書いた 電話番号

<オーバー>

- 12) そういつて湯川はイラストの上に，指で大きくクエスチョンマークを書いた。

汤川 说 着， 用 手指 在 肖像图 上 画了 一个 大大的 问号。

湯川 言う ながら 使って 指 に 肖像画 上 描いた ひとつ 大きい クエスチョンマーク

<容疑者X>

9) 10) は存在文，11) 12) は通常他動詞文である。動作主の有無，場所を表す成分に‘在’がつくかという違いはあるが，「場所+動詞+存在主体=対象」という語順は共通している。

なお，存在文以外に，所在文でも動作主が表現されず，自動詞的な表現になる。所在文では場所成分が動詞の後に置かれる。他動詞‘放’と自動詞‘坐’を使った例を挙げておく。所在文を使うか存在文を使うかは日中でずれがあり，必ずしも一致はしない。

- 13) 春子が記事を書いている週刊情報誌が，テーブルの上に置いてあった。

春子为之撰搞的 信息周刊 就 放 在 桌上。

週刊情報誌 ちょうど 置く に テーブルの上

<オーバー>

- 14) 利奈はムスツとして助手席に座っていた。

利奈 则 绷着 个 脸 坐在 副驾驶座 上。

利奈 は こわばらせて<量詞> 顔 座る に 助手席 上

<オーバー>

北村よう

名詞句が動詞の前に置かれるか後ろに置かれるかは、対応する日本語がガ格になるか（自動詞）、ヲ格になるか（他動詞）を中国語母語話者が判断する際の重要な手掛かりになるはずである。しかし、上で見たように中国語の存在文、所在文では語順が自他の判断基準として使えないため、中国語母語話者が日本語を産出する際に自動詞他動詞の選択、助詞の選択で迷うことが予想される。

4. 日本語の二項述語

日本語の二項述語には、「～ガ～ヲV」の形をとるものが多いが、「～ガ～ニV」「～ニ～ガV」などもある。「～ガ～ヲV」のVは他動詞であるが、「～ニ～ガV」のVは自動詞である。ところが、格関係を表すのに語順を使う中国語では、基本的にすべて同じ形になる⁷⁾。

たとえば、「備わる」は「～ニ～ガV」という文型で使われるが、対応する中国語「具备」は目的語をとる他動詞である。

- 15) 「予知少女なら、人間の本質を見抜く力も備わってると思うがね」そうやって湯川はサングラスを外し、本来の金縁眼鏡にかけかえた。

“我觉得他要真是**预知少女的话**, **应该 具备 看穿 人类 本性的 能力 吧**。”

はずだ 備える 見抜く 人類 本質<連体修飾> 能力 でしょう

汤川摘下**墨镜**, 戴上了**平时的金丝边眼镜**。

<予知夢>

- 16) 干したキノコは、干しシイタケのように乾燥しきっていなかった。まだ少し水気をふくんでいる。

蘑菇干不像香菇干那样干透, **还 略带 少许 水分**, ~

まだ 少し 帯びる わずか 水分

<センセイ>

- 17) このレム睡眠期は一晩に五回ほど訪れる。その間に、かなり多くの夢を見ている。その中にさらにいくつかの話題が含まれている。

浅度睡眠通常**一晚上会有五次左右**, 每次都会做很多梦, 其中 **每个 梦 又 包含着 其のなか それぞれの 夢 も 含んでいる**

几个 话题。

いくつかの 話題

<予知夢>

15) は自動詞, 16) は他動詞, 17) は他動詞の受身が使われているが、この場合、日本語でそれぞれ「備える」「含まれる」「含む」を使って言い換えてもほとんど意味は変わらない。

- 15') a. 予知少女に人間の本質を見抜く力が備わっている
b. 予知少女が人間の本質を見抜く力を備えている

- 16') a. (キノコが) 水分を含んでいる
b. (キノコに) 水分が含まれている

- 17') a. (夢の中に) 話題が含まれている
b. (夢が) 話題を含んでいる

なお、「包含」という動詞は、14)のように、主語に「～中」(～の中)「～里」(～の中)のように方位詞が来ることが多い。日本語では、

- 14") *夢の中は～話題を含んでいる。

とは言わず、「夢が～」となる。日本語で自動詞を使っても他動詞を使ってもあまり意味は変わらないため、大きい問題はないかもしれないが、中国語話者にとって、「備わる」という自動詞、「含まれている」という受身形の産出は難しいだろうということが予想される。

5. 自動詞の場合

中国語の自動詞の基本的な語順はSVであるが、次の例では、日本語のガ格に当たるものが、動詞の後ろに配置されている。

- 18) 男の額からは汗が流れ、更に足をとめる人が増えた。
男 青年 的 额头 上 流下了 汗水, 止步观看的人更多了。
男 青年 の 額 上 流れた 汗

<火花>

- 19) ステレオのスピーカーからは相変わらずクラシック音楽が流れていた。
音响 里 继续 流淌着 古典音乐。
ステレオ 中 続けて 流れていた クラシック音楽

<予知夢>

- 20) しばらくすると、光が雲間にまたいた。
不一会儿, 云层 间 发出了 闪光。
まもなく 群雲 間 出た またたき

<センセイ>

北村よう

21) 終点の吉祥寺を告げるアナウンスが流れる。

车上 响起 广播声, 终点站吉祥寺站马上就要到了。

車両で音がした アナウンス

<火花>

18) ~21) は、日本語でガ格で示される名詞句が中国語では動詞の後ろに置かれている。中国語には3. で述べた存在文のほかに、「隠現文」と呼ばれる出現、消失を表す文型があり、出現するもの、消失するものが動詞の後に置かれる⁸⁾。18) 19) では、日本語でカラ格で表されるものが動詞の前に置かれ、二項述語のようにになっている。中国語で日本語のカラに当たるものは‘从’であるが、中国語では18) 19) のように必ずしも‘从’は使わず、単に場所だけで表現することが多い⁹⁾。21) では原文の日本語ではアナウンスの発生場所には言及されていないが、中国語訳では場所が加わっている。

日本語でガ格で表されているものが中国語では動詞の後ろにあるため、中国語母語話者はガ格を使うべきかヲ格を使うべきかで迷うことが考えられる。意味的に他動詞とは思えない動詞でも中国語母語話者がヲ格を使うのは、このようなことに原因があるのではないだろうか。

6. まとめと今後の課題

以上、中国語母語話者が日本語の自他の区別をむずかしく感じる原因を構文面からさぐってみた。中国語では存在主体が動詞の後ろに置かれることがあり、その名詞句が自動詞的表現の存在主体なのか、他動詞的表現の対象なのか、位置からは判断できない。また、日本語には～ニ～ガVという形になる二項述語があるが、対応する中国語は他動詞となるため、自動詞を使った文の産出がむずかしくなることが予想される。また、日本語の一項述語が、中国語では場所が動詞の前に来て二項述語となり、日本語でガ格で表されるものが動詞の後ろに来ることもある。

本稿で明らかになった日本語と中国語との違いが、実際に中国語話者が日本語を理解・産出する際にどの程度影響しているのかはまだわからない。今後の課題としたい。

用例出典

<オーバー> 北川悦吏子『オーバー・タイム』(角川書店) 李建云译《加时赛》(上海译文出版社)

<センセイ> 川上宏美『センセイの鞆』(文春文庫) 施小炜/张乐风译《老师的提包》(南海出版公司)

<予知夢> 東野圭吾『予知夢』(文春文庫) 赵博译《预知梦》(海南出版社)

<容疑者> 東野圭吾『容疑者Xの献身』(文春文庫) 刘子倩译《嫌疑人X的献身》(南海出版公司)

<火花> 又吉直樹『火花』(文春文庫 Kindle版) 毛丹青译《火花》(人民文学出版社)

参考文献

- 相原茂・楊凱榮 (1990) 「自動詞・他動詞——中国語と日本語——」『国文学解釈と鑑賞』55-1号
- 于一楽 (2018) 『中国語の非動作卓越構文』くろしお出版
- 王軼群 (2009) 『空間表現の日中対照研究』くろしお出版
- 影山太郎 (1996) 『動詞意味論——言語と認知の接点』くろしお出版
- 北村よう (2013) 「日中両語における動詞の自他の対応について——存在文の場合——」『東海大学紀要 国際教育センター』第3号
- 北村よう (2018) 「中国語動詞の自他——なぜ中国語話者にとって日本語動詞の自他は難しいのか——」『東海大学紀要 国際教育センター』第8号
- 杉村泰 (2013) 「中国語話者における日本語の有対動詞の自動詞・他動詞・受身の選択について——人為的事態の場合——」『日本語／日本語教育研究 [4]』
- 建石始 (2009) 「2009年度 日本語教育学会秋季大会 パネルセッション「中国語母語話者による日本語動詞の自他の習得」日中両言語における自他の概観」『2009年度 日本語教育学会秋季大会 パネルセッション「中国語母語話者による日本語動詞の自他の習得 (『日本語教育』144号)』144号
- 角田太作 (2009) 『世界の言語と日本語改訂版 言語類型論から見た日本語』くろしお出版
- 原沢伊都夫 (2012) 『日本人のための日本語文法入門 (Kindle版)』講談社現代新書
- 羅菲・市瀬智紀 (2011) 「日本語の自他動詞の区別に関する対照分析と質問紙調査 中国人学習者を対象として」『宮城教育大学 国際理解教育研究センター 年報』第7号
- 范继淹 (1982) 〈论介词短语“在+处所”〉《语言研究》第1期
- 李临定 (2011) 《现代汉语句型 (增订版)》商务印书馆
- Levin, Beth, & Malka Rappaport Hovav (1995) *Unaccusativity: At the syntax-lexical semantics interface..* MIT Press.

注

- 1) 原沢 (2012) は、日本語の2字漢語に自他両用が多い理由として中国語から来たことをあげ、「中国語では自他の区別がなく、動詞は自動詞としても他動詞としても理解され」と述べている。
- 2) 羅／市瀬 (2011) pp.74-75参照。
- 3) 動詞ではなく形容詞とする説もある。
- 4) ‘着’ ‘了’ はアスペクト助辞で存在文では日本語のテイル・テアルに相当する。
- 5) ほかに、「座る」‘坐’, 「立つ」‘站’ など。Levin/Hovav1995の ‘Verbs of spatial configuration’ に当たる。影山 (1996) 参照。
- 6) 范 (1982) など。‘放’ と同じく設置動詞に属する ‘挂’ (かける・かかる) は、半月が、空にかかっている。
半轮月亮悬挂在夜空。〈センセイ〉
のように、自動詞としての用法も持つ。
- 7) 前置詞や、対象を取り立てる ‘把’ を使う場合などをのぞく。
- 8) 存在文と隠現文を合わせて、「存現文」と呼ばれる。
- 9) カラと ‘从’ の対応については、王 (2009) pp.31-60に詳しい考察がある。王 (2009) は、中国語の出現・発生を表す文では出現・発生場所を ‘从’ を使わないで表現するのが普通であることを指摘している (pp.39-40)。